

平成30年度 第2回 学校関係者評価委員会記録

日時 平成31年2月27日(水)15:00～16:00

場所 本校会議室

1 開会の言葉 (副校長)

2 校長挨拶

お忙しい中、お集まりいただき感謝いたします。

今年度は在籍847名でスタートしたが、8名の進路変更と1名の転入で現在全校生徒840名である。進路変更した生徒も新しい場で頑張ってくれていることと思う。1年生の研修旅行は今年も関西方面で、原爆ドームも見学したとのことである。SGHの活動で学んだものを研修旅行先での活動とリンクさせるなど、貴重な機会となった。昨年度はインフルエンザの流行で延期された予餞会はインフルエンザの影響も少なく予定通り開催した。インフルエンザへの対応として、定期考査日に万一罹ってしまった生徒には追考査を実施し対応することとしている。

年度末が迫るが今年度もお蔭様でなんとかここまでくることができた。先日、校内で年度反省会議を行い、次年度への改善点となる今年度の課題を洗い出した。来年度以降、5年間にわたる本校のSGHの指定が2019年度で最終年度となることや、現在の1年生から大学入試が刷新されることなど、新たな局面を迎えるが粛々と対応していきたい。

3 報告ならびに意見交換

(1)学校経営計画について(副校長)

・校訓を今後とも受け継いでいく。本校は、岩手県はもとより日本、世界で活躍する人材を育成するためにも文武両道を実践しており、充実した授業を展開し、知徳体のバランスの取れた生徒の育成に取り組んでいる。

(2)学校評価結果について総括(総務課長)

・生徒からのアンケート結果をもとに学校評価結果を作成しAからEの評価をしている。長期休暇の講習の評価については進路課から、また生徒の自己肯定感がC評価になっていることについては生徒指導課から説明がある。自己肯定感の評価は低いですが、前々年度や前年度と比較すると評価は上がっている。

(3)学習指導について(教務課長)

・生徒の学力向上に関する評価項目は概ねA評価であるものの、例年行っている基礎力確認調査の結果がB評価である。数学と英語の達成度合いは90パーセントだが、国語達

成度合いが70パーセント台であることが原因である。特に漢字の書き読みが不十分である結果が出ているので授業での改善を図る。

新学習指導要領に向けて、来年度から「総合的学習の時間」を「探求の時間」と改称する。本校のカリキュラムのベストは何か検討していく。その先駆けとして授業アンケートの内容を一部修正した。これからも情報を集めながら改善していく。

(4)生徒指導について(生徒指導課長)

自分によいところがあると評価する一高生は思いのほか多くない。個人的にはもっと図太い一高生であって欲しいのだが、自己肯定感が少ないのは残念である。一人ひとりの生徒が各種行事・部活動で活躍する場面を作ってあげたい。来年度は生徒の自己肯定感の評価達成度を80パーセントにしていきたい。

自転車事故は3件減った。いじめ問題は件数の多寡が問題ではなく、それぞれのケースの重みに目を向けて対応したい。いじめの内容はSNS絡みのものが多い。

人間関係のもつれは必ずあるが、それを乗り越えて図太さを手に入れ社会でたくましく生き抜いて欲しい。「なくす」ではなく「のりこえる」ということを家庭と協力しておこなっていききたい。

夏場は教室内が大変暑くなるため、服装に関しては軽装を認めている。

スマホについては、「使ってはならない」より「どう使うか」に着目して、体育祭などで写真撮影と連絡のみ可とした。数名違反はあったがこのような方向性で今後も考えている。

(5)進路指導について(進路課長)

東北大、東大の冠模試受験、医学部への訪問講習講座など、進学への意識付けを行なっている。年間行事として面談旬間を複数回設定し、その中で各担任が生徒と丁寧に面談をしており、朝の時間でも昼休みでも一日を通して校内各所で面談をしている姿が多く見られる。長期講習についてはアンケート実施時期の問題もある(長期講習前のアンケート実施)ため、アンケートの開催時期を変更する必要がある。今後も個に応じた指導をしていきたい。

進学に関するD評価の原因は、慶応・早稲田の合格人数が24名から15名に減ったことによる。国の方策で私大の定員が厳格化し、全体で3000~4000名の合格者減となったことが大きく影響している。指定国立大学法人への合格人数は60名前後で推移している。

現在前期試験が終了。これから中期後期まで粘り強く頑張っている生徒を支援していく。

東北大学AOⅡ合格17名は日本で一番多い数。第一志望を初志貫徹する意識が職員で共有され、生徒にも浸透していると思う。次の機会ではさらに良い結果を報告できればと思っている。

(6)健康安全指導について(厚生課長 教育相談室長 総務課長)

【厚生】

環境衛生活動として大掃除年三回実施している。

生徒の意識啓発：保健講話を年10回実施している。

普段から掃除を徹底するなど環境美化を徹底している。保健講話も今年度以上に充実した内容となるよう精査していく。

【相談】

カウンセラー来校年間合計31回（県費によるもの10回、私費によるもの21回）。生徒の相談も多くあったが保護者の面談も多くあった。

情報交換：教員対象の情報交換会を考査期間に実施している。必要に応じて病院との連携をとりながら対応している。

6月にアンケート実施「自分に誇りを持っている」生徒の割合が79パーセントだった。教員の声がけや家庭の声がけが必要である。例えば多くの生徒は家事の手伝いをしているが、手伝った際にはほめられたいという言葉を生徒から聞く。

【総務】

避難訓練が雨で中止になったが、教員が誘導せず、生徒が主体的に活動する形式の避難訓練を予定していた。今後も同じ形式で行いたい。

(7)その他について (SGH 課主任)

文部科学省の指定を受けて現在4年目である。年々プレゼンテーションの能力が向上している。探求する学習に対して生徒は好意的に取り組んでいる。来年度は指定最終年となる。文部科学省によるSGH指定が終わったあと、予算が国からなくなったとしてもこれまで培ったものを生徒に還元できるような体制をとっていきたい。

(8)各学年の状況

1 学年(1 学年長)

4月1日からオリエンテーションを行い先輩の厳しい指導のもとではじまった1年間が終わろうとしている。現在在籍者は282名である。

意欲的な生徒が多い。様々な対外学習に参加している。自分の進路希望を高く掲げて努力している生徒が多い。この心を折らないように学年で指導していく。

83名が東大見学会に参加する。例年の倍の参加数で、実りのある見学会にしたい。

生活の様子が不安定な生徒も少なからずいる。特にスマートフォンについては、指導が難しい場面も多くある。次年度以降は校内にWi-Fiの導入もあるため、スマートフォンの使用ルール・マナーについて今後も指導をしていきたい。

2 学年(2 学年長)

1名休学しているが、その他は進路実現に向けて頑張っている。

今は3年生0学期として受験に対する意識を高めている。

年6回の面談旬間で生徒のサポートを（主に担任を中心に）行なっている。

卒業するときに「一高でよかった」と全員が思ってもらえるように学年をあげてやっていこうと思う。

3 学年(3 学年副学年長)

先日前期試験が終了し、中期後期に向けて頑張っているところ。276名が卒業の見込みである。3年間の皆勤の生徒が51名の見込みであるが、3年になって欠席が増えた生徒がいて残念だった。それぞれ悩みを抱えながらも頑張ってきた。ぜひご助言いただきたい。

意見交換

評議員A

中学校段階でもその傾向はあると思うが、自己肯定感の低い生徒が多い。高校側で生徒の自己肯定感を高める手立てをとっているか。

【回答・説明】

自信をもてない生徒と教員が会話を通じてコミュニケーションをとったり、学校行事を活かして生徒ひとりひとりに役割を与えたりすることを考えている。教員が生徒と地道にコミュニケーションをとることが大切であると考えている。

評議員A

テストで得点できる生徒が一高を希望して受験するというパターンが変わってきている。がりがり勉強したくないという生徒が多い。物事を深く追求する生徒が少なくなっている。突き抜けない感じがある。

【回答・説明】

やはり突き抜けた生徒は少なくなっている。自分の長所を深めていくエネルギーを発揮して熱中するものを探してほしいと思う。例えば推薦入学の生徒は学力を身につけるのはもちろん、自分の長所を活かして学校を引っ張る存在になってほしいと思う。

評議員B

スマートフォンについて、子どもには使わせないのが当たり前だったが、今は時代が変化しており例えば英会話もスマートフォンの翻訳アプリを活かしたコミュニケーションもあるなど、テストに向けた勉強だけではない学習もありうる。大学の試験も電子辞書OKだったり、会議でスマホを辞書代わりに使ったりする姿もよく見る。過渡期である現在から今後10年でITのあり方も大きく変わることが予想される。

評議員C

生徒のSGH発表会に参加した。盛岡市が抱えている問題を懸命に考えてくれていたのだなと実感した。スマホ・SNSでの情報発信の便利さを痛感したと同時に持っていない人への格差も問題と感じる。問題について解決する能力を、失敗を繰り返しながら養って欲

しいし、プレゼンテーション能力についても同様に身につけてほしい。SGHの予算がなくなった後はどうなるか気になるところである。

子どもは部活動に熱心で、海外に研修したい気持ちがあるが、その間、部活動を休むことを気にしている。日常の活動を気にせず学校行事として海外と触れ合える機会があればよいと感じている。

【回答・説明】

今年度からSGHの海外研修先を米国から台湾に変更し、個人の支出が少なくなるよう工夫した。SGHの指定がなくなった後も同じように活動できるポストSGHのありかたを検討していく。

評議員D

盛岡の小中学校には教室にエアコンがつくことになったが県立高校はどうなるか。

【回答・説明】

県からの補助はなし。県では、来年度は特別支援学校から設置していくとのこと。県立学校を見ると保健室などについていない学校もある。県の予算を使って整備していきたいが時間はかかる。

評議員D

夏場の服装について、自分の経験ではポロシャツを着るなど自由度が高かった記憶がある。

【回答・説明】

あくまで節度を守ることが大事だと考える。

評議員E

今の先生方は大変だと、感服している。進学指導はその通りだが、キャリア教育はどのように展開していくのかお伺いしたい。

中学校ではインターンの的に開催しているが意味もわからず参加している生徒も多い。高校でも地域の企業に足を運ぶ機会があってもいいと思う。

【回答・説明】

SGHの活動では市と協力して活動して、生徒が企業に赴いて話を聞いている。研修旅行でも京都で課題に必要な状況について企業や事業所を生徒が訪れて話を聞く活動を行っており、キャリア教育の入り口くらいになっているかと思う。また医学部希望者には実際に病院訪問したり医療従事者のお話を伺ったりする機会を設けている。

評議員C

夏服の軽装は次年度もお願いしたい。生徒の自己肯定感が低いのは意外であったが、ほめられたいという気持ちがあると聴いてドキっとした。家庭で意識していきたい。娘の制服の第二ボタンの表面がはがれてきている。授業での先生の熱意を感じて前のめりになって授

業を受けているためかもしれない。今後とも情熱溢れる授業をお願いしたい。

【校長総括】

一高の生徒は、近年、おとなしい生徒になってしまっているような印象を受ける。しかしSGHの活動もあり、プレゼンテーション能力は昔の生徒とは比べ物にならないほど高くなっていると感じる。スマートフォンの課題は教員側のリテラシーによるところにもあるかもしれない。情報機器の進歩によって新たな課題が出てくる可能性もある。慎重な対応が求められる。

60年ぶりに復活した修学旅行は一時、海外コースもあったが今はSGHの活動を展開するなど新しい形で国内の一コースのみで実施している。

一高のような学校こそキャリア教育を行なうべきである。医者や弁護士を生むだけの学校ではないはずである。

この3月で退任する。改めて感謝を述べさせていただく。

4 その他

5 閉会の言葉(副校長)